

令和3年度第3回静岡県公立大学法人評価委員会（公立大学法人静岡文化芸術大学）

日 時	令和3年10月21日（木）15時30分から15時55分まで
場 所	県庁別館9階第1特別会議室
出席者 職・氏名	〈委員〉 櫻井透（委員長）、伊東幸宏（委員長代理）、杉村美紀、酒井範子、山本真由美 〈事務局〉 植田スポーツ・文化観光部長、京極スポーツ・文化観光部長代理、吉良総合教育局長、 手老大学課長 他

議題 第3期中期目標（案）について

事務局が資料1～3に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

<伊東委員>

- ・内容的にはほとんど問題ないが、6年間継続される目標なので、2箇所、文言を少々修正したほうがよい（下表下線部）。

資料1の表中：No. 3「意欲と特長」を並列で結んだ直後に「ある」という言葉がくるのは違和感があるため

No. 6「高度」は形容動詞であり、「高度な」とするのが適切であるため

No.	事務局案	修正案
3	<p>【前文】重点目標</p> <p>3 特色ある教育の推進や多様な学生による多様な学び方に対応する体制の充実により、静岡文化芸術大学で学ぶ意欲と特長ある学生を安定的に確保する。</p>	<p>【前文】重点目標</p> <p>3 特色ある教育の推進や多様な学生による多様な学び方に対応する体制の充実により、静岡文化芸術大学で学ぶ意欲を持つ特長ある学生を安定的に確保する。</p>
6	<p>第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育</p> <p>(3) 教育の内容</p> <p>(イ) 大学院課程</p> <p>幅広い視野と研究能力に加えて、高度の専門的職業に必要な能力と豊かな人間性を持った創造的な人材を育成するカリキュラムを運用する。</p> <p>(以下略)</p>	<p>第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育</p> <p>(3) 教育の内容</p> <p>(イ) 大学院課程</p> <p>幅広い視野と研究能力に加えて、高度な専門的職業に必要な能力と豊かな人間性を持った創造的な人材を育成するカリキュラムを運用する。</p> <p>(以下略)</p>

<事務局：手老大学課長>

- ・御意見のとおり修正する。

<杉村委員>

- ・法人から出された意見はいずれも適切な指摘である。

①資料1の表中：No. 4

「学力」を「資質」という言葉に言い換えているのは、時宜にかなった修正である。「学力」というと、どうしても点数や試験のイメージになってしまうが、現在、教育の分野では、この資質、あるいはコンピテンシーやスキルと表現されているものがなどいろいろな言葉で言われているものが重要になっている。持続可能な社会の担い手を育てるためには、知識の量だけを問うのではなく、批判的思考力、創造性、自主性、協調性など、いろんな資質がまさに問われるようになってきているので、とても実のある大事な指摘だと思う。

②資料1の表中：No. 11

静岡の特性を生かした適切な修正である。「外国人留学生や在留外国人学生」という文は、もともとの文章にも入っていたが、文末の表現を「留学生を積極的に受け入れる」から「外国人留学生や在留外国人学生を積極的に受け入れる」としたことで、静岡には多くの外国につながる方々もおられる中、外国から来る留学生だけではなく、まさに多文化共生に目を向けて行こうとする姿勢という点が、よく示されていると考えると思う。

<山本委員>

- ・今回の法人からの修正も適切だったと思うし、前回の評価委員会の意見も適切に取り入れられ、SDGsがいろいろな箇所に加えてあり、非常に良くなっていると思う。

<酒井委員>

- ・中期目標案を通して読んだが、適切な表現になっていると思う。評価委員会の意見も十分な反映がされており、法人からの意見もうまい表現でまとめている。細かい点も含めて、第2期の目標から第3期の目標へと、素晴らしい内容になっていると感じた。

<櫻井委員長>

- ・各委員から意見を伺ったが、その他全般的なことで何か意見があるか。

(意見なし)

- ・では、伊東委員から指摘のあったNo. 3とNo. 6については、若干字句の修正を加えるということで、我々はこの案に賛成という形で、締めくりたいと思う。もしよろしければ、これから発生する若干の字句の修正等については、私に一任いただくということ了解をいただいて、この案のとおり定めることが適当であるとして、知事に申し出ることとしたいと思う。皆様、御賛同いただけるか。

(反対意見なし)

- ・以上で本日の議事を終了する。

(以降、事務局から今後の日程紹介)